

日本学術会議 化学委員会 IUPAC 分科会 (第 24 期・第 2 回) 議事録

日時：平成 30 年 5 月 15 日 (火) 15:00~17:40

会場：日本学術会議 5 階 5-C(2) 会議室

出席者 9 名： 茶谷 直人、栗原 和枝、黒田 玲子、酒井 健、澤村 正也、  
澤本 光男、巽 和行、所 裕子、山内 薫

欠席者 3 名： 竹内 孝江、長谷川 美貴、山本 陽介

オブザーバー： Qifeng Zhou、Xuefeng Jiang、Minjie Huang

委員長	酒井 健	(九州大学大学院理学研究院・教授)
副委員長	茶谷 直人	(大阪大学大学院工学研究科・教授)
幹事	竹内 孝江	(奈良女子大学大学院自然科学系・准教授)
幹事	所裕子	(筑波大学大学院数理物質科学研究科・教授)

冒頭、委員の半数以上の 9 名の出席が得られたので、分科会として成立することが確認された。また、オブザーバーとして参加された Qifeng Zhou (IUPAC 会長)、Xuefeng Jiang (East China Normal University 教授)、Minjie Huang (北京大学、IUPAC 会長秘書) の紹介がなされた。

- (1) 昨年度 12 月 27 日に開催された第 24 期・第 1 回 IUPAC 分科会の議事録について報告がなされ、承認された。
- (2) 元 IUPAC 会長である巽委員より、現 IUPAC 会長である Qifeng Zhou 氏へ歓迎の意が述べられるとともに、分科会開催の挨拶がなされた。
- (3) Qifeng Zhou 氏より”Join IUPAC: Why and How”という題目でプレゼンテーションがなされ、IUPAC の目的や活動、IUPAC における日本の貢献などが紹介された。また、来年、2019 年が IUPAC の創設 100 周年の記念の年であること、さらに、国際周期表年 (IYPT) であり IUPAC にとって重要な年となることが紹介された。そして、IYPT の閉会式を日本で開催することを検討してはどうかとのコメントがあった。
- (4) IUPAC の活動のひとつである、”化学企業で活躍する若手人材のための安全教育プログラム”について議論がなされ、このようなプログラムが重要であることが確認された。また、IUPAC の活動にさらに多くの研究者が参加するための広報活動等について、意見交換がなされた。
- (5) 現 Bureau Member である酒井委員長より、4 月に開催された Bureau ミーティングの報告がなされた。また、日本国内の国際周期表年記念事業を検討するための分科会が新しく設置されることが報告された。

- (6) 日本が IYPT の閉会式の開催地として立候補することを IUPAC 側に伝えるとともに、日本に誘致できるように IUPAC 側に働きかけることが確認された。
- (7) 元 Bureau Member/Executive Committee Member の山内委員より、Qifeng Zhou 氏へ感謝の意が述べられるとともに、分科会閉会の挨拶がなされた。

以上